

多文化関係学会 2017 年度第 2 回理事会 議事録

開催日時：2017 年 7 月 23 日（日）午前 11 時～12 時 45 分

開催場所：明海大学浦安キャンパス（於千葉県浦安市）2531 教室（講義棟 5 階）

出席者：9 名 松永、中川、湊、田中、原、伊藤、宇治谷、武田、松井（順不同）

委任状：6 名 奥西、金本、趙、出口、内藤、山田（順不同）

1. 報告事項

（1）各種委員会報告

①学会誌編集委員会より

現在査読者からの返事を待ちであり、査読結果を 7 月末に締め切り、8 月 10 日に編集会議を開催し、判定を行う予定である。編集会議後に執筆者への連絡を行う。

応募件数は、13 件であった。

②北海道・東北地区研究会より

年次大会の準備中のため、地区研究会については、現段階で未定である旨の報告があった。

③関東地区研究会より

本日、今年度第 1 回研究会を「石井先生を偲ぶ企画」及び田崎先生ご講演として開催する旨の報告があった。

④関西・中部地区研究会より委員を 1 名追加する事案について報告があった。

⑤事務局より

現在の会員数の報告を行った。

総会員数 380 名うち正会員 274 名（11 名不明）、学生会員 100 名（22 名不明）

シニア会員 5 名、賛助会員 1 名（不明）

⑥学術委員会より

・特定課題について 20 日募集締め切り、応募 1 件

・石井奨励賞について 応募 4 件

（2）年次大会準備進捗状況報告

①プログラム内容について

・簡易プログラムを 7 月 17 日に発送した。経費節約のため準備委員会で印刷、送付作業を行ったが、長時間を要するので次回大会からは、従来通り業者委託の方向で考えた方がよい。

会員数は、約 270 で、名簿を管理するインターブックスからは、海外在住会員は 4 名という連絡だったが、発送作業をした後の郵便局とのやりとりから、日本在住会員リストの中にカンボジア在住会員が含まれていたことが判明した。

- ・研究発表は 17 件で、昨年の九州の 18 件とほぼ同数であった。ほか、ラウンドテーブル・ディスカッション 1 件、英語プレゼンテーションワークショップ 4 件（ラウンドテーブル・ディスカッションから名称変更）、パネルディスカッション、学際シンポジウム、基調講演を行う。

- ・英語プレゼンテーションワークショップは、実施内容が明らかになるよう名称を変更した。

- ・基調講演は公開する予定である。

- ・総会並びに 2016 年度石井奨励賞受賞者挨拶は、2 日目の昼休憩時間に行い、ランチ総会とする。

- ・次回の理事会は、年次大会 2 日目、9 月 10 日（日）の午前 8 時～9 時に行う。

②進行中の作業について

- ・抄録集は、現在作業中であるが、7 月中に仕上がる見通しである。

- ・広告掲載企業は 5 社（有斐閣、明石書店、研究社、ナカニシヤ、インターブックス）で、請求書と抄録集を送付予定である。

- ・事前申込み、事前支払いの集計は 8 月 4 日以降に行う。

- ・懇親会は、現在業者とやり取り中である。経費節減のため、手作り案等を検討中である。

- ・アルバイトは 10 人程度確保できる見込みである。

- ・プレカンファレンスについては、今後、開催場所の北海道博物館と詳細を詰めていく。

- ・紀要の販売については、大会準備委員会がインターブックスから取り寄せることとする。

- ・1 冊 1800 円、全バックナンバーを 3 部ずつ取り寄せる。

- ・売り切れた場合は購入者が直接インターブックスに連絡し、購入する。

③来年度の年次大会に向けての課題

◆抄録原稿スタイルチェックについて

スタイルチェックの作業に関し、以下のような議論がなされた。

- ・現状では、担当者の負担が大きすぎるうえ、詳細な修正指示を行わざるを得ない場合が少なくない。

- ・過去の大会を振り返ると、大会ごとに対応が異なるケースがあった。大会ごとに変えているのは好ましくない。

- ・心理学以外を専門とする研究者の中には、日本心理学会準拠の形式に慣れない人もいる（補足：学会誌執筆要項第 5 条において「論文中の表記は、使用言語が英語・日本語のいずれであるかに拘わらず、米国心理学会の規程に準拠するものとする」と定められている。発

表抄録も学会誌の定めに従うことになっている)

・質的調査データの記載については、執筆者が自分で凡例を作成するため、執筆者により米国心理学会のスタイルとは異なる表記を用いる場合もある。

→次年度以降の大会から学会誌に準拠することは明記しつつも、詳細については web でテンプレートを示すことにする。

◆発表応募と新規入会の時期について

今回、新規会員登録の受理と当該者の年次大会発表応募登録の受理の時期を調整する事態が生じた。入会応募、承認、入金まで 3 週間かかるが、今回は、締め切り延長にともなう登録の遅れとして処理した。

今後も同様の事態が起こることが予想されるが、発表応募の時点で会員登録を済ませておくことが原則である。ただし、締め切りが延長になった場合は、会員登録の処理が間に合わないため、少なくとも締め切りまでに仮登録を済ませておくこととする。

◆研究発表の採択をめぐる問題について

査読は、査読者 3 名で行っているが、準備委員会で紛糾したケースがあった。上記のケースに関しては、学術委員会に相談した結果、かなり多くの条件をつけての採択とした。

(3) その他

なし

2. 審議事項

(1) 年次大会における補助金および残金の取り扱いについて

現在、大会通帳に 215,667 円の残高があるが、大会残金は本会計にもどすべきか否かについて、協議を行った。

財務委員長より、過去 3 年間の大会補助金に関する報告があった。報告内容は以下のとおりである。

- ・2016 年度は大会補助に関する収入、支出はない。
- ・2015 年度は大会運営費として 30 万円支出し、30 万円戻している。
- ・2014 年度は大会運営費として 50 万円支出され、残金 65,429 円が本会計に戻されている。

→大会の残額は大会用として別枠で維持し、次回から 5 月の臨時総会では大会費用の会計報告も行うことが承認された。

(2) 記念出版について

- ・現状は、5 月の理事会での報告と変わらない。

- ・20周年の記念出版としては決定だが、方向性については未定である。
- ・10周年記念出版をふまえ、それ以降の10年に焦点をあてたものにするか、実践研究的なものにするか、ワーキンググループを立ち上げて、テーマを議論することが承認された。
- ・一案として学術委員会メンバーと過去の会長経験者でワーキンググループを構成し、企画アイデアを出し合い、理事会で報告することになった。

(3) 広域地区研究会について

- ・これまでの地区研究会はそのまま、地区を越えて若手が発表できる場をつくるという考えからの発案である。
- ・方針について理事会で決め、具体的にどうするかということを学術委員会で議論することが承認された。
- ・地区同士が連携し研究会を開催、地区の事情に応じて若手の発表の場を設ける、講演会の実施、また、広域で実施した場合は地区の研究会は実施しないなど、柔軟に実施することが決まった。

(4) その他

- ・研究者ではない方の発表について

研究者ではないが、多文化関係学会に関連するような社会問題に関心があり、活動している方の発表の場があればいいのではないか。ポスターセッションをそのような場にあてている学会もある。実践とのむすびつきは本学会でも重要である。

→門戸をなるべく閉ざさない方向で、次年度大会への引き継ぎの際に、今回話し合ったことを伝えることに決まった。ポスターセッションやラウンドテーブル形式による事例報告セッションを作る案も考えられる。

- ・学会誌編集委員会より

執筆者からジャーナルに正誤表を入れたいという要望があるが、過去にそのような事例があるか。

→正誤表までは許可するが、web上のもの(CiNii、J-stage等)は自己責任で行うことに決まった。